

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： 一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地 長野県上田市上田 180-6
評価実施期間： 令和 6 年 7 月 1 日から令和 7 年 2 月 12 日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告 会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050431 B18052 B18051	

2 福祉サービス事業者情報（令和 6 年 10 月現在）

事業所名： (施設名) 認定こども園 明星保育園	種別： 保育所型認定こども園
代表者氏名： (管理者氏名) 宮下順一	定員（利用人数）： 120 名 (135 名)
設置主体： 経営主体： 社会福祉法人 明星会	開設（指定）年月日： 昭和 36 年 11 月 1 日
所在地：〒395-0807 長野県飯田市鼎切石 3928 番地	
電話番号： 0265-24-8020	FAX 番号： 0265-24-8008
電子メールアドレス： myoujou-408@juno.ocn.ne.jp	
ホームページアドレス： myoujou-hoikuen.com	
職員数	常勤職員： 20 名 非常勤職員 11 名
専門職員	(専門職の名称) 栄養士 1 名 養護教諭 1 名
	調理師 3 名
	看護師 1 名
施設・設備 の概要	(居室数) 13 室 (設備等) 砂場、人工芝築山、雲梯、
	あずま屋、木製遊具等

3 理念・基本方針

○保育理念

- すべての子どもが守られ、尊重され、健やかな身体と人生の礎となるその人らしさの基盤をつくる。
- 一人ひとりの個性が尊重され、他者を主体として受け入れ、受け入れられ、様々な体験を通して学び続ける資質を養う。
- 家族、地域を取り巻く文化・社会を理解し、保護者・地域と相互に子育てを支え合う子育て支援。

○保育方針

- 安心、安全で安定した環境の下で、個々の発達に相応しい生活と遊びを保障する。
- 乳幼児期でしかできない直接的な体験を通して、一人ひとりの資質、能力を保育教諭や他の園児と共に育む。
- 地域の人々、障がいのある人々との交流を通して他者の多様性に触れるなかで、自己と他者を受け入れるまなざしの基礎を育む。
- 多文化共生、予測が難しい時代に、おとなも子どもも健全に成長できる地域を実現するために子育ての支援の充実を図る。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

○明星保育園が位置する鼎地区は飯田市のほぼ中央に位置し、1984年に飯田市に編入合併されるまでは下伊那郡にありました。地名の「鼎」は、さかのぼること明治8年、山村・名古熊村・一色村の3村が合併した際に3つの村が鼎の足のように均等融合し自治の振興や産業の発展、福祉の増進を祈願して命名されたということです。

旧市内を除くと市内では最も小さな地区ですが、平成6年に飯田バイパスが開通してからは農地の宅地化や大型店の出店が進み、人口は約13000人、5300世帯と市内でも有数の人口密集地帯となっています。

○明星保育園は、いつも子どもが中心の保育園でありたいと願い、保育を進めています。子どものありのままを受け入れ、子ども主体の保育を目指して、チーム保育で取り組んでいることが、職員の意識を高め、保育の質を上げていくことにつながっています。自分で考えて自ら動ける子どもを目標に、子ども達からの意見、発想を引き出そうと努めていること、配慮が必要な子どもも一緒にクラスで遊び、生活することで、思いやりの心、多様性を学ぶ環境となっています。保育者は保育実践と毎日の振り返り（クラス会）を通して、専門性と保育の質の向上に努めており、全職員が助け合い、切磋琢磨して、より高みを目指して成長していくような取組が様々な場面、環境設定等から見られます。

地域の福祉ニーズや子育て支援の拠点として様々なサービスの提供もしています。

特色ある取組としては

1. **未就園児交流**「おひさまくらぶ」として、月1回、ミニ夏祭り、水遊び、さつま芋掘りなど活動を通して、未就園児を持つ親子と交流をしています。
2. **親子相互交流**「ぼっかぽか」として、毎週水曜日、親子の交流の場所を提供しています。
3. **一時預かり事業**では、就労などの理由により、家庭での養育が難しい場合、保育園で一時的に子どもを預かっています。
4. **こども誰でも通園制度**（令和6年度試行的事業。0歳から2歳児が対象）では、全ての子どもの育ちを応援し、子どもの良質な育成環境を整備することを目的として、1人月10時間を上限として、保育園で子どもを預かっています。
このような機会を通して随時、子育て相談にも応じています。
5. **人形劇フェスタ地区公演**として、毎年夏行われる飯田市人形劇フェスタ地区公演の会場として保育園で人形劇を公開しています。
6. **外部講師によるリトミック、運動遊び、絵画教室**は、専門的な視点からのカリキュラムにより実施しており、子どもたちの好奇心や、やってみたい、の心を大いに刺激しています。
7. 知的障がい者施設「明星学園」の利用者さんとの交流を通して、多様性を学ぶ機会としています。
8. 飯田市の応急避難施設に指定されており、災害対策については行政機関とも連携をとって進めています。保育園が作成するBCPマニュアルに従い、備蓄品、避難用備品の準備を行い、**災害対策への意識**を高めています。

保育面では

1. 年少、年中、年長の幼児クラスで**異年齢グループ**を構成し、日々の散歩、運動会、種目、遠足、祭りのペント等で異年齢ならではの交流を行っています。子どもたちは年上の友だちにあこがれる心、年下の友だちに優しくしようとする心を育て、たくさんの経験を通してコミュニケーションの方法も学んでいます。
2. 毎月第4週目のカリキュラム委員会で、**クラスごとの翌月の月案を読み合わせ、様々な角度からの視点で意見交換し、内容を深めています**。読み合わせを通じて、他のクラスの活動を知り、さらに月案作成の気づきと学びの機会となっています。
3. **食育**を大切にしています。お腹が空くリズムを大切に、温かいものを美味しく食べられるように、目の前で子どもに食べられる量を相談しながらの配膳を行い、食べたい気持ち、食事の楽しい気持ちを育んでいます。また、延長保育の手作りのおやつは保育時間の長い子どもたちの楽しみになっています。
4. 配慮が必要な子どもも同じクラスと一緒に遊び、ともに生活する**インクルーシブ保育**に取り組んでいます。個別支援計画を作成し、無理なく、楽しく園生活が送れるよう専門機関の先生、保護者と相談しながら保育に取り組んでいます。

5. **保育参加**では、保護者に保育園の食事を子どもと一緒に食べてもらい、保育園での子どもの食事の様子を見ていただいています。保護者にも保育園の食事大切にしている「薄味」「地元の食材」「旬の食材」の美味しさを知っていただく機会となっています。
6. 「**信州やまほいく**」として、長野県から信州型自然保育認定制度の認可を受け、自然保育を実施しています。法人所有のわくわく山で、春は山菜取り、秋には栗拾い、また、山の近くの畑にさつま芋を植え、秋には芋ほりをしています。さらに園近くの田んぼで田植えをし、秋には稲刈りを実施し、収穫の喜びを感じられるよう、体験を通して五感を育む保育を大切にしています。
7. **地域交流事業**にも積極的に参加しています。約40年の歴史を持つ明星ちびっこ太鼓は地域の納涼祭や文化祭で和太鼓の演奏を披露しており、地区の方も毎年楽しみにしてくださいます。また、地域の高齢者との交流として、介護施設「みつばさ」に訪問しています。老人施設「たまゆら」からは高齢者の方が来園され、ふれあいを楽しんでいます。世代間交流を大切にし、思いやりの心を育て、高齢者との優しいかかわりの時間を楽しんでいます。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	3 回（令和3年度）
---------------	------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

【組織力の向上に向けた取組をしています】

○組織としての適正な人材配置

- ・法人の運営規定等に従い、組織としての指揮系統を一貫させた体制が整えられています。保育園においては園全体の総括、管理をする園長職をトップに主幹保育教諭が職員や保育全般の把握を行い、さらにクラス主任というポジションの職員は担当するクラスの責任者として担任一人ひとりの意見をよく聞いて、同時に経験の浅い職員も意見を述べやすいよう配慮しながら相互理解に努めています。また主幹とともに園全体のつなぎ役としての役割を果たしています。
- ・今年度は「みんなしあわせプロジェクト」に取り組んでいますが、プロジェクトには園長を配置せず、正規職員を会長として、主幹とパート職員を含めた3名が副会長、職員15名での構成とし、トップダウンのないように構成されていました。
- ・自主的な委員会組織（園内支援・人材育成・リスクマネジメント・防災防犯・衛生・人権倫理・業務改善・広報・給食検討）を構成し、職員が目標をもって園の役割を担えるようにしています。園長は、職員一人ひとりのスキルや経験などを踏まえて人事配置を行い、職員の育成にも丁寧に寄り添って、職員の学びとチームワーク促進に向けた取組をしていました。
- ・園長は、丁寧な保育には人数（人手）が必要である、との考えから職員の確保にも努めています。歴代園長が築いてきた園の特色を継承しつつ、今いる職員で、多様に変化する社会情勢に対応しながらまた新しい保育の歴史を刻んでいくための取組を堅実に進めています。

○理念・ビジョンの共有

年度はじめの職員会や園内研修、年度途中の話し合いなどの機会には、常に保育園の理念・ビジョンが明確に示され、全職員の共有が図られています。職員は理念を共有し、チームとしての目標を理解して同じ目標に向かって保育を進めています。目標が明らかなので、研修や自身の保育も意欲的に実施しています。

主幹保育教諭、クラス主任は指導案の見直し、検討の時は理念や目標に立ち返ることを大切にしています。

○チームワークを生かして協力しながら対応する環境

園内研修や小グループ会議、さらには掲示板（大判模造紙）を用いた意見集約方法の工夫などを通じて、職員は誰でも自分の意見を述べやすい環境があります。どんな意見や提案も互いに認め合い理解しようとする職場の雰囲気はたくさんのチャレンジを生み出す原動力になっています。コミュニケーションの取り方の工夫はチームワークのよい組織となり、質の高い保育の提供、安心・安全保育にもつながっています。

【子どもの主体性を育む保育をしています】

職員は子どもをよく見て、今どんなことに興味や関心を持っているかを常に把握しようとしてい

ます。「何かな?」「やってみたいな」と子どもが自分から関わりたくなるような環境を構成し、子どもが遊びを展開していく中でも自発的に作り替えていかれるようなコーナー作りを工夫していました。

製作遊びのコーナーでは必要な材料が自由に手に取れるようにし、室内・戸外遊びではともに自由な発想で遊びを選び、自由に展開できる環境設定がありました。

職員は主体性を育てるために、子どもが自分で考えて選んで、自分で決める、ということを大切に捉えています。園内外の環境や自然物なども生かしながら、子どもの経験が偏らないよう保育計画を検討し、見直しを繰り返して豊かな環境設定に努めています。

○未満児保育の充実

0歳児、1歳児は担当制保育を導入しています。担当制保育を始めたころは特に職員の連携の取り方が課題で、子どもの情報共有の方法、職員同士の手助けの仕方などを一つひとつ話し合いながら解決してきました。その結果、年齢的な育ちを大切に、この時期に育てたい愛着心を育むため、個別記録はもちろん、保護者との連携、また担当が変わるときの引継ぎも丁寧にして子どもの安心や安定、笑顔を目標に保育を進めています。

未満児に限らず、当園では職員を多めに配置することで、一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添った保育を目指しています。

◇特に改善する必要があると思う点

【職員が長く仕事を継続していけるための職場づくり】

園長は、職員が産休・育休を取得し、その後の短時間労働等も充実させることで、退職することなく、仕事が続けられる環境を整えていきたいと考えています。制度をより有効に活用し、職員が将来において自己実現が可能で、仕事に対してやりがいを感じられるような職場風土の醸成を目指しています。

【施設整備】

現在0歳児、1歳児の保育室が2階にありますが、今後0歳児、1歳児の入所の需要はさらに増えてくると予想されます。毎日の送迎時や園庭遊びのしやすさを考慮し、対策の1つとして、保育園施設の大規模改築をして、1階へ設置するよう中長期計画に含めて、長期的に検討していく予定です。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目(別添 1)
- ・ 内容評価項目(別添 2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添 3－1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）